

# ドイツのマイヤーベルフトとエムデン港

会員 福富 廉

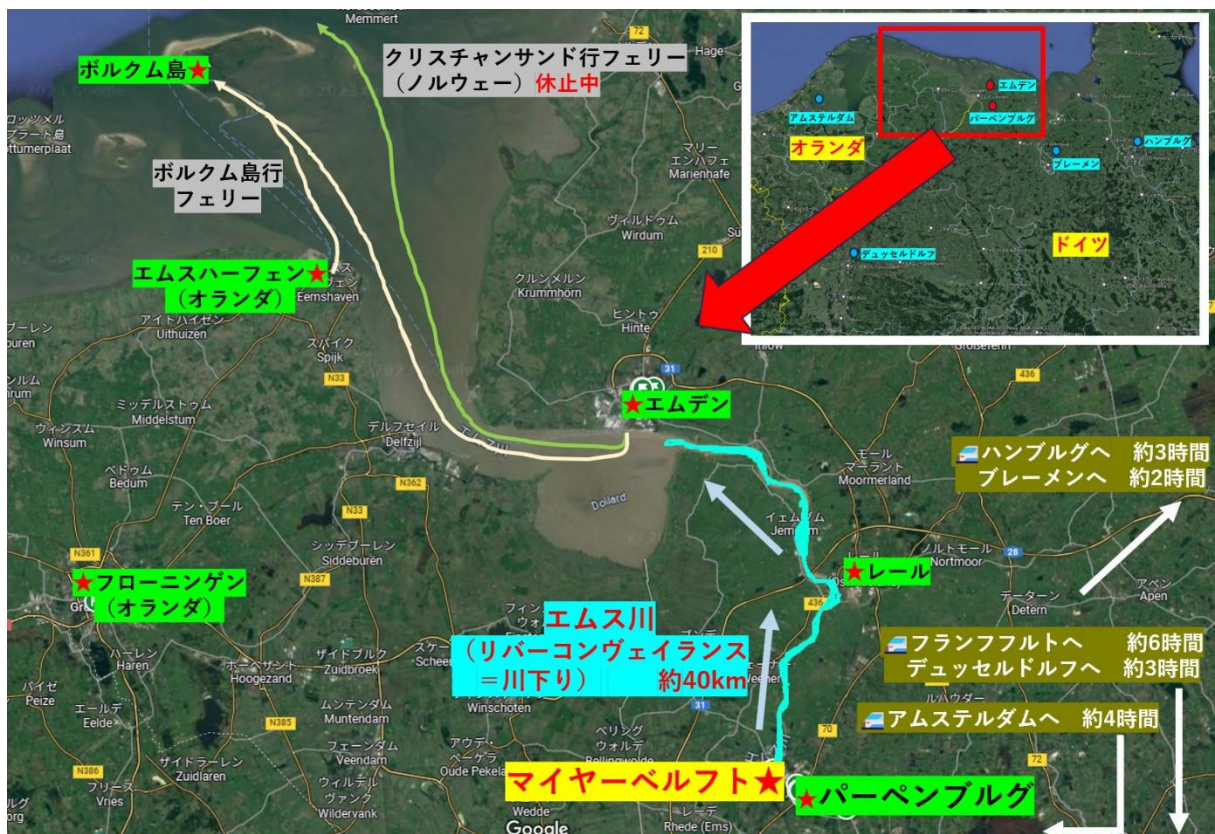
クルーズ客船建造で有名なドイツの造船所マイヤーベルフト、巨大な屋根付きドックと新造船がエムス川を下るリバーコンヴェイランスを併せて興味が尽きない場所である。ある時、有償で工場見学ができることを知り計画したがコロナ禍となってしまった。この9月、満を持して訪問してきたので、その下流にあるエムデン港の様子も含めてレポートしたい。

## 1. パーペンブルグとその周辺

マイヤーベルフトのある街パーペンブルグはドイツ北西部のオランダ国境近くに位置する。この付近は内容の細かさが売りの「地球の歩き方」でさえ記載の無い観光空白地であり、近辺に商用空港が無いので、主な公共交通機関は鉄道で、比較的近くの大きな町ブレーメン（50万人都市）へもレールで乗換えて特急（IC）で約2時間、その他の町へはそれ以上に時間を要する。また、より近い隣国オランダの町フローニンゲン（20万人都市）との間は本来はレール経由の鉄道で

1時間程度の距離だが、数年前の洪水でその間の鉄道橋が落下したままで復旧の様子が見られない程であることも考えさせられるところである。

一方、エムス川河口近くの街エムデンは、リバーコンヴェイランスが終わる場所であり、エムデン・ドックヤードがあつて、クルーズ客船がドックしている写真をよく見る。ここと、対岸のエムス川左岸のオランダの街エムスハーフェンはマイヤーベルフトで作られた船の試運転のベースだったり、引渡式の場所として度々使われているようである。



(図1) マイヤーベルフト周辺地図

なお、エムデンにはフォルクスワーゲン／アウディの基幹工場があり、鉄道では車を積んだ貨物列車が頻繁に見られた。

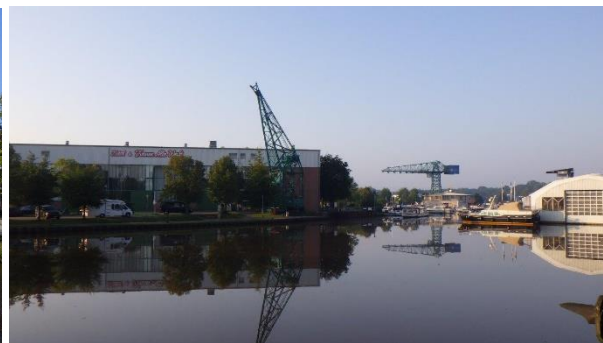
さて、パーペンブルグの街自体は、本当に静かな田舎町という感じであった。鉄道駅は街外れにあって長大なホームがあるけれども無人で、東京近郊だと国府津とか真鶴付近のような感じ、駅の周りは運河が巡っていて、この辺りは昔、造船所があったところのようだ。それとは別に、街の中心をハウプト運河が貫いており、野外海事博物館として、運河の所々にタグボートや帆船が泊まっていたが、全て飾り物のレプリカだった。運河の両側にお店や飲食店が並び、多少の賑わいがあったが、いわゆる観光地と言った風情ではない。

私達は、駅からハウプト運河方向に5分ほど行ったところにある、ホテル・アルテ・ベルフト（古い造船所）というホテルに泊まったが、ここは元造船所の施設。レンガ造りの建物の中に食堂があり、建物内には機械部品や船のハーフカットモデル等、船に関する色々なオブジェがあり、部屋の中の絵は帆船とタグボートの設計図だった。

ホテルの近くから1日数回、港巡りの遊覧船が出ていて、乗ろうとしたら団体予約で乗れなかったが、所々で見たところ、運河巡りが中心で、マイヤーベルフトの近くで折り返していた。



パーペンブルグの街の中（ハウプト運河）



パーペンブルグの街の中の港（左がホテル・アルテ・ベルフト）



1904年製タグボート DORTMUND IX のレプリカ



1978年製内陸貨物船 TEKLA VON PARPENBURG のレプリカ



市庁舎（左）と帆船 Friederike von Papenburg のレプリカ



ホテル・アルテ・ベルフトの元造船工場の食堂

## 2. マイヤーベルフト見学

マイヤーベルフトの見学要領は、以下の通り。(いずれも要予約)

①自由見学 13 ユーロ

現地ビジターセンター集合 4~10月毎日/11~3月 月・水・金・土

②ガイド付きツアー 16 ユーロ (1日数回)

現地ビジターセンター集合 4~10月毎日/11~3月 月・水・金・土

③プレミアムツアー 26 ユーロ (1日1~2回)

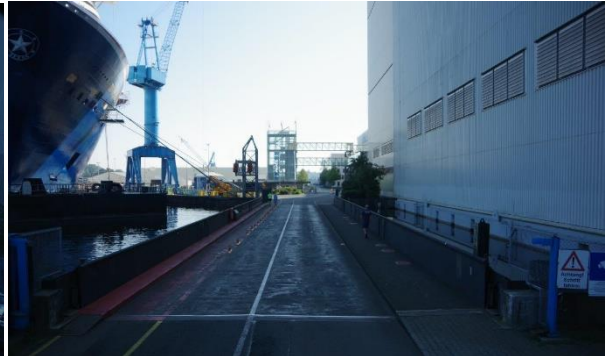
パーペンブルグの街中から専用バスでの送迎付。主に金・土・日  
特典として、そのバスで造船所構内を一周してくれる。

ちなみに、ホームページの予約画面も、ガイドの説明も、見学施設の表示も全てドイツ語のみで、英語ガイドは個別団体のみということだった。かろうじて、私が英語表記を見たのは、展示物の一般配置図 (GA) 等の図面内のみだっただろうか。

私達は土曜午前のプレミアムツアーを予約して、集合時間の10時15分に集合場所の街中心部にあるマイヤーズ・ミュレ (風車の建物がある) に行った。そこに MEYER WERFT の名前が入った2階建て専用バスが来て、ほぼ満席の乗客を10分程で造船所まで連れて行ってくれた。運良く2階の最前列を確保でき最高の眺め。入口脇で、まず目に入ったのは、この7月21日にドックから出て艀装中の「カーニバル・ジュビリー」だ。晴天の中、真っ白な船体がまぶしい。その後、そのまま構内に入って、大きい方のドック2と小さい方のドック1の間に入ってドック1とパイプセンターの周り一周して、入口脇のビジターセンターまで連れて行ってくれた。なお、この構内移動中のみ撮影禁止だった。



マイヤーベルフトの入口



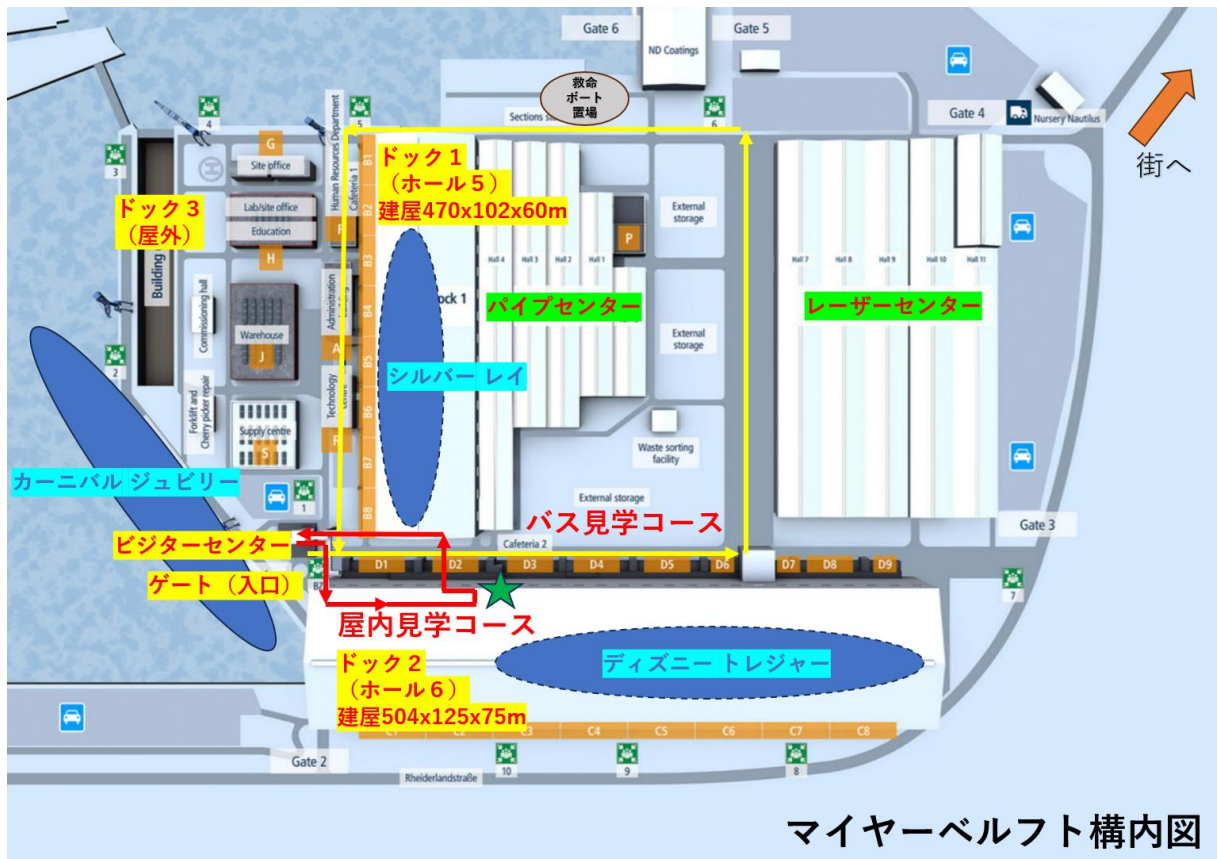
ドックゲート (右が建屋の扉)



ビジターセンター (左) と見学者通路



構内から入口側を見る (手前に専用バス)



(図2) マイヤーベルフト構内図



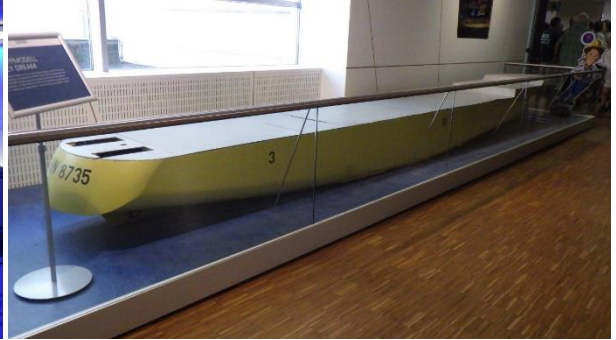
上の(図2)の★の位置から見た左右の情景

構内の印象は、とにかくコンパクトで、きれいだという。ほとんどが屋内にあるからだろうが、屋外にはブロック等がほとんど無く、目に付いたのは積み重ねられたライフボート位ただだろうか。昔の造船所のイメージしか知らないが、ずいぶん違って見えた。

一周してビジターセンター前でバスを降りてからは階段を上がって施設間をつなぐガラス張りの通路を通って、まずドック2に入って其々違う部屋でビデオを2つ見せられた。最初は、現在の造船所の様子/建造工程等に関するもの、次が歴史的なもの。前者では、ITを駆使した設計や流れ作業での建造等の説明がなされ、広報ビデオであるとしても、もしこの通りならすごいものだなあ、という印象を受けた。後者では、運河沿いの昔の造船所のものだろうが、クルーズ客船第1号のホーム・ラインズの「ホーメリック」(42,092GT、後の先代ウェスターダム)が横滑り進水でできたことに興味が行った。

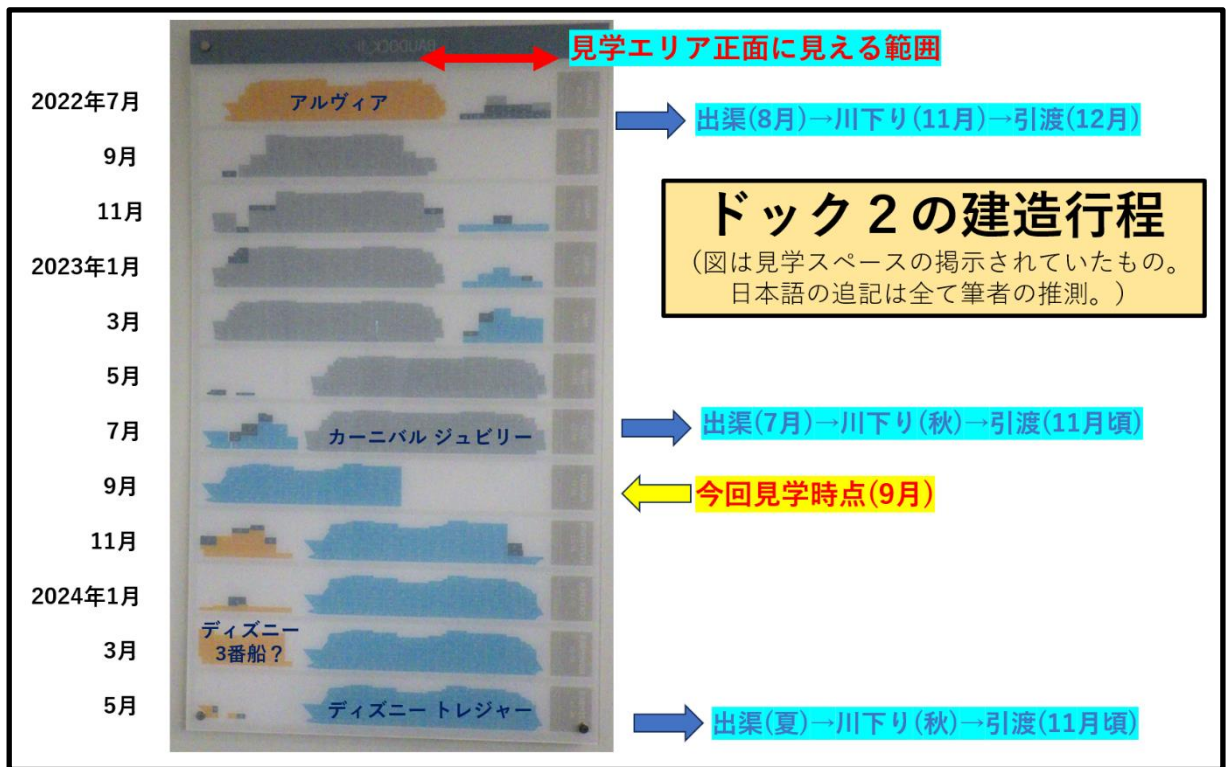


歴代建造船の模型ルーム（非常に広い）

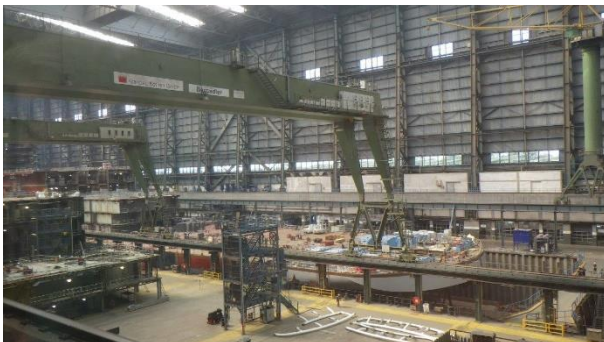


「ディズニー・ドリーム」の水槽試験模型

この後、施設の概要に関する展示と建造船の模型が並ぶ大きな部屋で説明を受けた後、1つ上の階に上がるとドックが見える見学スペースになる。右手にドックの扉とおぼしき壁、左に大型船（ディズニートレジャー）の船尾船底が見えるが、比較的広々としていて、左奥に目を凝らすと船体らしきものが何とか見えるくらいだった。壁に掲げられた図【図3参照】を見るとわかるとおり、見学スペースがドックの出入口近くのみなので、7月に「カーニバル・ジュビリー」がドックを出たあとの空白期のような感じだった（後述参照）。



(図3) ドック2のクルーズ客船建造過程（筆者の推測を含む）



ドック2（ディズニー・トレジャーの船尾）



ドック2の扉（右手に出渠する）

見学スペースを出た後は、NCL、RCI、ディズニー、AIDA の 4 社の展示スペースとなり、何れにも標準的なバルコニー船室のモックアップが付属していた。

そして次に、ガラス張りのブリッジ通路を渡ってドック 1 に行った。



クルーズ船社毎の展示スペース (NCL と奥が RCI)



ドック 1 で建造中の「シルバー・レイ」

建物に入ったとたん目の前に「シルバー・レイ」の船尾が迫っていた。船体はほぼできあがっていたようだが、まだ未塗装の状態だった。おそらく、この次、ここで郵船クルーズの新造船ができるのだろうと思った。

ビジターセンターでは造船所の歴史や船に関わる書籍や絵はがき、土産物等、結構興味をひくものもあったが、MEYER グループの造船に関わる「INNOVATION & TECHNOLOGY」(英独併記) という本だけ購入して、バスで集合場所の街の中心部に戻ったが、そこでは午後の部の見学者が多数、バスを待っていた。ここからの往復見学時間は約 2 時間 45 分だった。

ところで、購入した「INNOVATION & TECHNOLOGY」という本の中では、既に NYK CRUISES 「ASUKA III」と明確に記されており、そうなのだろうとは思いつつちょっと驚いてはいたが、見学の約 1 週間後に「飛鳥III」に決まったとの報道を目にした。後で知ったところでは、来年 2024 年の「飛鳥II」世界一周の途時、マイヤーベルフト見学のオプションツアーもあるそうだが、ハンブルグからは片道約 200Km あるので、やや遠い。

今回の見学に際しては、旅行自体を半年以上前に決めたことから、船台の状況等はほとんど気にしないで行った。もちろん、ドックからの引き出しと川下りと言う 2 大イベントがあることは知っていたが、直前までわからないし (川下りについては、直前に FACEBOOK で告知される)、一般の日本在住者がタイムリーに飛んで行けるわけでもない。ただ、先にも述べたように見学スペースや各状態は限られているので、今回の経験を元に予測資料【補足資料参照】を作ってみた。雑誌等で見られるような屋内での完成間近の姿を見に行くのなら、ドックからの引き出し (出渠) の直前~3 か月前くらいの間だろうか。大型船の川下りは水位の関係で春か秋のようだ。

最後に、マイヤーベルフトを外から見るのと、あと、川下りの場所を確かめたいと思い、造船所とエムス川の水門に行ってみた。水門を通り抜けることができず、構外を 2 周する羽目になってしまったが、マイヤーベルフトの内外を一通り見て回ることができた。



艤装中の「カーニバル・ジュビリー」



東側から見たドック 1



東側から見たドック 2 と「カーニバル・ジュビリー」



港巡りの遊覧船「パーペンプルグ」



中央左が構内を隔てる水門で、ここからエムス川に出て行く



川下りで船が運ばれて行くエムス川（左方向へ）



左写真の位置から右方向、上の写真の水門奥・反対側

### 3. エムデン港

マイヤーベルフトで出来上がったクルーズ客船がリバーコンヴェイランス（川下り）をする終点がエムデン沖である。以前から興味があったし、調べてみると港も船も見るとべき要素が大変多そうだったので、1日かけて行ってみた。

まず、エムデンは運河の街である。街の中を運河が通って、所々に閘門があり、中でも十文字にクロスした交差点上の閘門は興味深かった。運河巡りの遊覧船も定期的に運航されている。

エムデンの港は水門で内港と外港に分けられていて、水上バスのような内港だけの遊覧船と閘門を通過して外港に出て行く大きな遊覧船もある。内港には中小型の客船の修理等も行うエムデン・シップヤードがあり、一番奥には何隻かの保存艦船も係留されている。中でも、元の灯台船「アムラムバンク」は博物館兼レストランになっており、船内の内装がきれいだった。ただ、夏場のレストランはデッキでの利用しかできなかったが、食事も見目がきれいでおいしかった。

外港からは、エムス川河口の先にあるボルクム島へ行く定期旅客航路があり、高速艇1隻と在来型フェリー2隻が運航されていた。この乗り場はドイツ国鉄のエムデン・オーセンハーフェン駅と直結しており、行った日はフェリーが大幅に遅れて入港してきて、接続の特急（IC）が発車時間を遅らせて待っていた。また、今回の旅行前にはノルウェーのクリスチャンサンドとの間を2日に1回往復するホランド・ノルウェー・ラインのフェリーがあり、予約受付していることも確認しており、行った当日は休航日で会えないことも認識していたが、本稿を書くにあたって再確認したら、経済的な問題で8月末で休止していた。元タリンクの「ロマンティカ」（40,803GT）が就航していたはずなのだが。



エムス・ヤード運河の円形閘門（交差点）  
水位調節と進路変更が可能



内港の遊覧船「ラーツデルフト」



外港まで行く遊覧船「アトランティス」



エムデン・シップヤード



同左 浮ドックの独海軍「シュレーズヴィヒ・ホルシュタイン」





内港最奥部の保存艦船群



元灯台船「アムラムバンク」博物館兼レストラン



ボルクム島行きフェリー「オストフリースラント」古い船だがLNGに換装されているらしい、太いマストが特徴的



ボルクム島から到着したフェリー「ウェストファーレン」



右写真の左端のランプはホランド・ノルウェー・ライン用



ボルクム島行き双胴高速艇「ノルドリヒトII」



入港してきたパーペンブルグ市所有の帆船  
「ゲジネ・フォン・パーペンブルグ」(1985年製)



# 筆者の見た MEYER WERFT 建造船

船名 (建造年) 撮影場所
---------------------



(左) ヴェニス  
(1992) サントリーニ  
(中) スーパースター・ウァーゴ  
(1998) 東京湾  
(右) ラディアンス・オブ・ザ・シーズ  
(2001) ラハイ



(左) ノルウェイジャン・ジュエル  
(2005) シアトル  
(中) セレブリティ・ソルステイス  
(2008) ウェリントン  
(右) セレブリティ・リフレクション  
(2012) ミノス



(左) アイダ・ノバ  
(2009) ハンブルク  
(中) ディズニー・ドリーム  
(2010) ナッソー  
(右) クオンタム・オブ・ザ・シーズ  
(2014) 東京湾